



函館ラ・サール高校同窓会報

函館ラ・サール高校同窓会

〒041-8765 函館市日吉町1丁目12番1号

PHONE/0138・52・0365

<http://www.h-lasalle.com>

日吉の丘

2008.12.1
Une colline de
Hiyoshi
Vol.9



50周年記念事業 高校寮全面改築 旧体育館改修に決定!



創立50周年記念マーク

制作/野上尊啓氏(22回生)



高校寮完成予想図

きたる二〇一〇年(平成二二年)、函館ラ・サール学園は昭和三五年の学園創立以来五〇周年を迎えます。現在学園では五〇周年記念事業の計画を推進中で、二〇一〇年には学園として五〇周年記念式典などを実施する計画です。

さらに記念事業の一環として高校寮の全面改築と旧体育館の改修とを計画しています。建設の所要資金は概算十億円程度が見込まれるとのことです。

本事業への協力要請がすでに二〇〇六年、学校側よりなされ、同窓会として資金協力をしていくことがすでに、総会で議決されていることは皆様ご承知の通りであります。

同窓会としてはあらゆる機会を捉えて広く同窓生の皆様に呼びかけて、募金活動を進めています。すでに今年七月には寄付金の額が三〇〇万円を突破いたしました。さらに多くの皆様方からの幅広い協力を得るために、各支部でも募金のための専門組織作りを進めるなど、さまざまな対応が進められています。

同窓生の皆様には、かつて学んだ学舎への愛着と学恩をあらためて思い起こし、この募金への力強いご協力をあらためてお願いしたいと思ひます。

皆様からの個人としてのご寄付、さらには同期会、クラス会などのあらゆる機会を捉えて、本寄付金募集への積極的なご協力を切にお願い申し上げます。特に同期会等の懇親会などでの募金や、会費剰余金などは金額の多少を問わずご寄付いただけると嬉しい限りです。

高校寮は今回の全面改築により、竣工予定の二〇一〇年四月までには、ほとんどが取り壊されてしまいます。青春の思い出がたくさん詰まった懐かしい寮がなくなってしまう前に、卒業生の皆さんには、是非、訪問していただければと思います。

清水寮頭(同窓会事務局長)より



フェルミン校長からのメッセージ

The Dreams of our Brothers

函館ラ・サール高校校長 同窓会名誉会長
ブラザー フェルミン・マルチネス

今回、私の挨拶のタイトルは米国の大統領候補者二人の著作名と似ているでしょう。これから話題にいたします「Our Brothers」... 私達の兄弟とは誰でしょう。函館ラ・サールの歴史を振り返ってみますと、その人物は誰であったかはある程度、想像がつくと思います。

さかのぼること約八十年、一九三二年十月二十二日に函館港に上陸した四人のカナダ人のラ・サール会修道者が「Our Brothers」... 私達の兄弟であります。彼らは、その秋の日から見知らぬ異国の街、函館をあちろちろ行き来したに違いありません。同時に、当時の函館の市民、特にカトリック教会の信者の方々から、様々な話を聞き、情報収集に努めたことでしょう。その時、どのような学校を作るのが適当か、どのような若者のための学校をつくるべきか、誰と一緒に教育ができるのか等々、解決しなければならぬ問題が沢山あったことは想像するにたくありません。

次にタイトルにある「The Dreams」についてお話いたします。まず、彼らの一番目の夢は母国カナダにあるラ・サールの学校より広いキャンパスがほしいというものであったのではないのでしょうか。その結果、彼らの希望通りの広さの土地を、現在の校舎のある日吉の丘に購入できたのです。しかしながら国際情勢の悪化から残念ながら、校舎を建てるまでには至りませんでした。その後、戦争が近づくにつれ、外国人に対する状況は厳しくなり、四人のブラザーは仙台に移りました。戦争中には、彼らは他の修道者と一緒にある修道院で留置され、その後、

帰国を余儀なくされました。

二番目の夢は、日本において、非道な扱いを受けたにもかかわらず、日本人の子供たちのために、再び日本への派遣が認められることでした。何と彼らの精神は気高く、慈悲深いことでしょう。そして、フランスにおける聖ラ・サールと全く同じ出発点で、日本にも「恵まれない子供」のために最初の施設を建てることになりました。昭和二十三年十二月二十六日仙台ラ・サールホームはオープンしました。現在も、東仙台的光が丘でラ・サールホームは「恵まれない子供」のために運営されています。

三番目の夢は、四人のブラザーの後継者が日本人の中から出てくることでした。彼ら自身が厚い信仰心を持ち、素晴らしい修道者として模範的な聖ラ・サールの証人のような存在でしたので、すぐに一人の函館出身の若者が、ラ・サール会に入ることになりました。その人は、水上留次郎氏、当時二十六才でした。その後、水上先生は死去されるまで、ラ・サールの生徒だけではなく、どの若者に対しても温かいブラザーでした。四人の「Brothers」たちと同じように、第三番目の夢をもう一度実現できること。特に、卒業生の間から自分の人生を「Brother」として捧げて、他者のため、特に「恵まれない子供」のために尽くすような人材が輩出することを神様に願っています。四番目の夢は二十八年間、実現が遅れてしまった夢です。その夢は「函館ラ・サール高校」開校でした。初来日した時、彼らは諦めませんでした。数年間の期間

を経て、たくさんの方々の協力、支援、激励などのお陰で、ついには一九六〇年に我が校が開校されました。今年の春、四十六期生が卒業し、同窓生は一万二千人を超えています。同窓生の皆さんは、現代社会の多岐にわたる分野で、素晴らしい活躍をされています。四人のブラザーが、言葉では言い尽くせぬ苦勞をして築いた日吉の丘の「学舎」。そこから今後にも更に多くの同窓生が巣立っていき、ラ・サリアンとして、世界中で活躍すること。それが四人のブラザーの思い描いたであろう真の意味の夢の実現になると思います。

おそらく、彼らの心の中には、聖書の以下の言葉があったのではないのでしょうか。

「もし一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、死ねば、豊かな実を結ぶ。」（ヨハネ一二・二四）

本校は間もなく五〇周年を迎えます。同窓生の皆様は、これまでいろいろな形で母校のために協力して下さっています。在校生への講演、図書館への著書寄贈、五〇周年記念事業のための寄付、仙台ラ・サールホーム、ハイチのラ・サール校への支援、同窓会奨学金など、誠に有り難うございます。これからもご支援よろしくお願いいたします。

The Dreams of our Brothers are still alive among us.

病者の祈り



函館ラ・サール高校同窓会会長
齊藤 裕志 (5期)

大事をなそうとして

力を与えてほしいと神に求めたのに

慎み深く従順であるようにと

弱さを授かった

より偉大なことができるように

健康を求めたのに

より良きことができるようにと

病弱を与えられた

幸せになろうとして

富を求めたのに

賢明であるようにと

貧困を授かった

世の人びとの賞賛を得ようとして

権力を求めたのに

神の前にひざまずくようにと

弱さを授かった

人生を享受しようとして

あらゆるものを求めたのに

あらゆることを喜べるようにと

いのちを授かった

求めたものは

ひとつとして与えられなかったが

願いはすべて聞きとどけられた

神のみにここに添わぬ者であるにもか

かわらず

心の中の言い表せない祈りは

すべてかなえられた

私はあらゆる人の中で

最も豊かに祝福されたのだ

(ニューヨーク大学リハビリテーション研究所

の壁に刻まれている無名一患者の作)

「聖書をひらく」富岡幸一郎著より

私はこの「病者の祈り」という無名患者のつくった詩を、在校生諸君の前で紹介したことがあった。昭和三十九年に入学したその八月に、同期生の死に遭遇した私は、当時のオーラス校長先生のお言葉に思わず涙した自己体験を、併せ述べさせてもらったのである。記憶の糸を手繰った話の内容は、入学時に彼の余命が半年と宣告されていたこと。そして彼がどんなにかラ・サール高校に憧れて入試に臨んでいたか等。家族はすべてを学校側に打ち明け、校長先生はそのことを承知の上で入学を許可したということであった。クリスチャンでもない私が敢えて「病者の祈り」を紹介し、十六才で早世した同期生について話したのは、そのこ

とが人生の営為だと感じとったからに他ならない。そして、誰も自分の未来を予測し得ないから、何が起ころう共、与えられた運命への平静さと、勇気と、知恵を持って生きて欲しいとの願いを語ったつもりである。

先日ラベル理事長とお会いする機会があり、次の様なお話しをお聞きした。「ブラザーでなくても、カトリック信者でなくても、聖ラ・サールの精神は引き継ぐことが出来ます」と。ブラザーが、ブラザーに変わり得る教育者を育てようとしており、日本流で喜寿を超えた七八歳の老ブラザーは、日本での生活のすべてを、ラ・サールスピリットの普及に尽力したいと願っていることをお伝えしたいと思う。

さて同窓会では各支部総会や同期会等で、参加者にドネーションをお願いすることにした。そしてこの数ヶ月でその淨財は四〇万円にも及びましたので、中南米のハイチにクリスマスバスケットの一部として送金することにしました。これによって、二〇〇人余の子供達が学校で学べるようになりました。本邦では貧しい人を救うことは、政治や制度であって個人ではないと思っている人が実に多く、一世帯の年間寄付額は米国がおよそ十六万円に対して、日本では二五〇〇円前後と圧倒的な差があるらしい。弱者や貧しい者を助け、共に生きていくことが出来るのは、人間だけに与えられた使命であり、分けあう喜びは、必要以上にストックする満足感を超えていることも知るべきである。本学同窓会の存在意義をここに思い出したいと思う。

函館ラ・サール高等学校 同窓会名簿2008 完成!

5年ぶりに同窓会名簿の改訂版が完成し、
刊行のはこびとなりました。
ご購入希望の方は、学校事務局まで
お問い合わせください。

事務局/TEL.0138-52-0365

1部 5,000円

平成19年度 事業報告

平成19年

8月 25日	同窓会総会
9月 1日	西日本支部総会 出席／齊藤会長
9月 15日	札幌支部総会 出席／星野事務局長
9月 28日	第1回同窓会役員会
10月 6日	東北支部設立総会 出席／齊藤会長、清水事務局長
11月 2日	追悼式 出席／齊藤会長
11月 15日	会報第8号発行
12月 14日	クリスマス会 出席／佐藤副会長
12月 22日	第2回同窓会役員会

平成20年

1月 31日	第3回同窓会役員会 同窓会入会式
2月 1日	高校卒業式 出席／齊藤会長
3月 2日	ハイチへの寄付(50万円) 仙台ラ・サールホームへの寄付(50万円)
3月 20日	第4回同窓会役員会
4月 2日	入学式 出席／齊藤会長
5月 22日	同窓会奨学金選考会 出席／齊藤会長、清水事務局長
6月 15日	第5回同窓会役員会
6月 22日	東京支部総会 出席／齊藤会長、清水事務局長
7月 11日	拡大役員会(総会に向けての準備会)
8月 7日	第6回同窓会役員会
8月 23日	第7回同窓会役員会 同窓会総会

平成19年度 会計報告

一般会計 (円)	
収入の部	
A. 前年度繰越金	4,277,320
B. 同窓会会費(46回生)(34,600円×186名)	6,435,600
C. 同窓会グッズなどの売上げ	300,000
D. 受け取り利息	6,702
E. 前回名簿代金回収分	5,316,828
合 計(A)	16,066,450
支出の部	
A. 会報	1,123,468
B. 同窓会名簿データ保守・管理	118,020
C. 総会補助(平成17年8月)	436,610
D. 卒業証書フォルダー	0
E. 支部運営費	2,202,940
F. 会議費補助(7回)	270,322
G. ホームページ運営費(平成19年度)	252,000
H. 支部総会への出席	351,100
I. 奨学金運用資金への補助	1,404,535
J. 寄付(ラ・サールホームとハイチ)	1,000,000
K. 諸会合・式への出席	66,336
L. 郵送料	5,670
M. 名簿制作関係	1,130,489
N. その他	73,233
合 計(B)	8,434,723
次年度繰越金 (A) - (B) = 7,631,727	

奨学会会計

ラ・サール奨学基金	30,000,000
創立30周年記念事業費[728名]	9,542,021

奨学金平成20年度給付分(平成20年6月支給)

収入の部	
1. 前年度繰越金	3,340
2. 基金の平成20年度利息	32,125
3. 一般会計からの補助(平成20年度分)	1,404,535
合 計(A)	1,440,000
支出の部	
1. 平成20年度給付金(24万円×6名)	1,440,000
合 計(B)	1,440,000
次年度繰越金 (A) - (B) = 0	

特別会計

I. 平成16年度一般会計余剰金からの定期預金	12,000,000
II. 50周年事業口座	2,990,721
III. 同窓会名簿収入(2008年6月25日～2008年8月14日)	2,189,600

監査報告

一般会計・奨学会会計ならびに特別会計ともに、監査の結果、諸帳簿も整い適正に執行されていることを認めます。
平成20年8月20日(水) 監査 永澤大樹・國谷大輔

スピーチのトップバッターは今年度、東京支部の新支部長に選出された植木さん(四期生)。次に、旧職員(六名)、現職員(八名)の方々から一言ずつ挨拶をいただきました。また、今回の総会に一番参加人数の多かった六期の方々と二番目の五期の方々にもスピーチを頂きました。途中にDVD上映「川村裕司氏(十一期生)がバンドリーダーを務める宮間利之とニューハードの演奏：昨年本校の芸術鑑賞会時に演奏されたビックバンドジャズ用アレンジされた校歌と学生歌」を入れ、最後に宮崎先生の指揮で、学生歌、校歌を歌い、東京支部の植木会長(四期生)の一本締めで大団円。なおこの会で集められたドネーションの金額は、約十一万円にもなりましたが、学校のクリスマスバスケットへ寄付されます。懇親会終了(二時)●予定終了時間をかなりオーバーしましたが、多くの出会いと感動に満たされた総会は余韻を残しながら散会いたしました。皆さん、懇親会ですっかり良い気分となり、各期ごと二次会へとグループとなって大門、五稜郭の夜の巷に消えていきました。



お知らせ

来年の総会は8月22日(土)ホテル函館ロイヤルにて開催と決定しました。多数の方々のご参加を期待しています。

同窓会 総会 報告

2008.8.23

函館ロイヤルホテル

役員会(十五時) ●各支部からの役員(西日本支部・戴越会長、関東支部・植木会長・堀副会長・林事務局長、東北支部・伊藤事務局長・小笠原事務局長補佐、札幌支部・宮永会長)を交えての役員会。各支部の近況等の報告、総会の最終打ち合わせ、五〇周年記念事業について等の審議がなされました。

講演会(十七時) ●講演会は伊藤 恒敏氏(六期生 東北大学医学部教授)にお願いしました。演題は「医療を崩壊させないために／マグネットホスピタルの提案」大変、説得力のある講演内容で現代日本の医療が抱える深刻な問題を実感することができました。(講演抄録掲載)

同窓会総会(十八時二〇分) ●黙祷の後、齊藤会長、フェルミン校長、ラベル理事長がそれぞれ挨拶されました。この後、議事に入り事業報告、会計報告、監査報告がなされ、拍手で承認。また、五〇周年事業への協力について担当役員の星野事務局次長から報告がなされました。

懇親会(十九時) ●札幌支部長の宮永さん(六期生)の祝杯の音頭で懇親会スタート。今年は昨年の人数(約一五〇名)には届きませんでしたが、多数の(約一二〇名)参加があり、大盛会となりました。



大効率で執行しなければならぬ。その基盤となる客観的データを揃えるだけでもこの研究の価値がある。米国では政策変更に伴う予算の1%は政策評価研究に配分される。

六、マグネットホスピタル／若い医師を教育環境で惹きつける

東北大学では、〇〇年から〇二年度分について東北大学から直接赴任する医師数と病院の種別、規模などを調査した。病院を「研修指定病院」と「非研修病院」の二群に分け、それぞれに三年間で何人の医師が赴任したのかを調べた。研修指定病院は東北六県で病院規模が平均病床数で五〇七、非研修病院の平均病床数は一五六、その差は比で三・三倍。医師の赴任数で見ると、五〇七床の研修指定病院には三年間で一病院当たり二十七人に対して、一五六床の非研修病院には、一病院当たり一・八人。赴任医師数の比は十五倍だ。赴任医師数が病床規模とは比例せず、約五百床の病院に多くの医師が赴任する実情が明らかとなった。

大学から病院への赴任医師数で、病院を分類してみても同様の結果だ。

医師が好んで赴任するのは五百床前後の病院で、それより小規模では赴任医師数が病床規模に比例しない。特に二百〜三百床の病院には想像以上に少数の医師しか赴任しない。しかも、この調査は「新医師臨床研修制度」施行以前のものだ。最大の理由は市町村がバラバラに小規模に設置した病院では若い医師にとつての教育環境整備に人的にも財政的にも余力を割けず、働きにくい、技術向上を

期待できない。

五百床前後の医師の集まりやすい病院（診療科が揃い、三次救急も可能、医師数も七十人前後となり、指導医も多く教育環境が整う）を、アメリカの看護協会が「マグネットホスピタル」（米国看護協会が看護師数激減を食い止めるための方策として、労働環境が整っていて、看護師を多く引きつける優秀な病院を審査の上認定）を借用し、中核的病院を指す用語として二〇〇六年早期に使い始めた。医師にとつて教育環境が貧乏しなければ誰もその病院へは行きたくない。赴任しやすいように病院は医師へのインセンティブを考えるべきだ。中規模・小規模病院しかなく医師不足に喘いでいる医療圏こそ、医師を惹きつける「マグネットホスピタル」の設置を人口規模が二十万人程度で一つ考えるべきだ。

この定義のなかで重要なのは「指導医も多数いて、若い医師のための教育環境が整っている」という点だ。医師を集めると言うことは病院の持つ教育体制が一番に評価されてのこと。これより小規模では、財政的にも若い医師にとつての教育環境整備に余力を割けない。医師にとつて教育環境が貧乏ければその病院へは誰も行かない。

重要なことは、マグネットホスピタルが一定以上の医療の質を維持できるということ。ほとんどの診療科が網羅されて、三次救急も可能。医師も多く、夜間の当直体制も安心度が高い。二百〜三百床の病院にはこれがない。

深刻な医師不足に喘いでいる医療圏にこそ人口二十万人規模に一つ、マグネッ

トホスピタルを設置し、医療圏全体で医療の質を確保し医師の教育環境を整備して医師を引きつける。そのうえで医療圏の地理的事情や住民の生活事情も考慮して中小病院の戦略的な配置を考え、マグネットホスピタルへの患者搬送手段なども含めて住民への安心を担保すべきだ。二百〜三百床規模の病院を複数かかえて、医療圏全体で深刻な医師不足に陥っている医療圏こそ、市町村の垣根を越えて話し合い、現状の非効率な病院設置配置を認識し、病床数を持ち寄ってマグネットホスピタルを設置すべきだ。

七、包括的医師育成機構／地域全体で医師を育てる

東北大学医学部同窓会名簿で、卒業生の動向を三十分調べた。卒後二十年まで各人のキャリアは全体として変化するが、二十年を越える（四十五歳前後）と、それぞれのキャリアに変化がなくなる。つまり、卒業後二十年を経て、医師はフアイナルキャリアを決定する。医師は十五〜二十年の長期スパンで育成を考えながら、その配置やキャリアデザインを考える必要があるということだ。

地域全体で医師を育成する「包括的医師育成機構」を提唱する。医師の生き方に配慮し、医師の長期的育成を視点の中心に据え、大学医学部と病院群と県単位の行政が一体となって、多様なキャリアパス（五百床規模病院での二〜三年の長期専門医トレーニングと中小規模病院での短期総合医・家庭医トレーニング）を準備し、医師自らに選択させ、医師の配置を考える。経営主体の異なる病院間の

医師の異動を行政が保証する。大学はそうした人の流れのなかから後進を育て、病院群は自分の病院にあった医師育成プログラムを用意する。そうすれば、医師の育成と配置が両立できる。

八、おわりに

現状の医療問題を基本的に解決するためには、医師の増員以外にない。もちろん、医療費抑制政策の「箍（たが）」も外さなければならない。緊急を要する事態だが、放置すれば事態はさらに深刻になる。ことは人の命に関わる。もはや人道に反するレベルに達している。「座して死を待つ」か「困難を引き受けてビジョンを描く」か、いずれにしても即効性の解決策はない。時間がかかるが、「教育」をキーワードに「人材」を育て、彼らに将来を託すのが、たとい最良ではなくとも適切な解決策だ。

【参考文献】

- 一 伊藤恒敏「地域医療システム構築」東北大学医学部の取り組み」東北大学出版会 仙台2005
- 二 伊藤恒敏、本郷道夫、溝口二郎、金村政輝、木村秀樹、小笠原博信「マグネットホスピタルの提案（上）」社会保険旬報2007 No.2332、「マグネットホスピタルの提案（下）」社会保険旬報2007 No.2333
- 三 小笠原博信、伊藤恒敏、本郷道夫、金村政輝、木村秀樹、溝口二郎「必要医師数推計と医学部の適正定員」社会保険旬報2008・6
- 四 Satterly, F., "Where have all the nurses gone?" Prometheus Books 2004.
- 五 東北大学大学院医学系研究科地域医療システム学「医師不足と地域医療の崩壊 東北大学地域医療シンポジウム講演録Vol.2 医療再生へのビジョン」日本医療企画 東京2008
- 六 伊藤恒敏編著「マグネットホスピタル」日本医療企画 東京2008



講演 医療を崩壊させないためにマグネットホスピタルの提案

伊藤 恒敏（六期）

東北大学大学院医学系研究科発生生物学分野 教授
前東北大学大学院医学系研究科地域医療システム学（宮城県）寄附講座 副主任教授
前東北大学大学院医学系研究科地域医療教育開発センター長

一. はじめに

特に地方の中小規模の自治体病院から医師がいなくなっている。診療科の閉鎖や、病院の閉鎖も珍しくない。医師が不在で病床稼働率も減少し、経営上も大幅な赤字を出しているところが多い。この惨状に改善策はあるのだろうか。明るい希望の兆しは見えるのだろうか。

二. 医師不足の予兆

二〇〇二年、北海道に端を発した医師名義貸し事件が〇三年になって東北大学にも波及した。東北大学はさらに、研究助成金問題も発覚し、メディアから強い批判を浴びた。現在の深刻な医師不足・医療崩壊の始まりだった。「東北大学大学院医学系研究科地域医療教育開発センター」が文部科学省の予算で〇五年四月に、同六月に「同地域医療システム学（宮城県）寄附講座」が設置された。行き着いた結論は「医師不足」だった。

三. 医師不足

三. 一. 病院報告・医療施設調査と医師調査との「乖離」

「病院報告・医療施設調査」は、全国の医療機関に三年に一度提出させる調査で、各医療機関に勤務する医師や看護師の数が報告される。戸籍調査である「医師調査」では、実働医師数が約二十五万人（〇二年）であるのに、同年の病院報告・医療施設調査では医療機関に勤務する医師数が約二十九万人。病院や医療施設を実際に運営しているのが二十九万人の医師なのに、医師調査では二十五万人。二つの調査とも厚生労働省のもの。しかもこの状況が一九九〇年から放置されたままである。われわれが初めて深刻な医師不足を感じ取ったデータだ。これこそが医師名義貸し問題および地域医療崩壊の真の原因ではないのか。県や一市町村だけでは解決できないと確信した。現場がどこも厳しい現実に悲鳴を上げているのに手だてがないのは、この問題の基本的な解決を考えないからだ。

三. 二. 国際比較

OECDのデータで、日本の人口あたり医師数（20／千人）はOECD加盟国平均（29／千人）の三分の二。病床あたり医師数、看護師数も加盟国中最低。日本は病床数が多いと非難される。英米には日本の急性期病院ほどの機能を持つナーシングホームが亜急性慢性の患者のケアにあたるが「病床数」に計数されない。ナーシングホームのベッド数を入れると米国と日本と病床数が同程度になる。

医学部教員数も、日本の大学では欧米の1/3から1/2程度。この数で臨床教員は診療、教育、研究と、そして地域医療への貢献まで求められる。

三. 三. 過重労働時間

大阪府医師会の調査でも、「医師の需給に関する検討会」の資料でも、日本の医師は平均で週に64〜66時間も働く。過労死の基準を超える。医師の当直もいまだに実態的勤務だとは公的に認められていない。

三. 四. 女性医師問題

女性医師の医師全体に占める割合は20%弱、医学部卒業時で約40%。女性医師は卒業後約十年で結婚・出産・子育てで、就業率が著しく下がる。そのため女性医師の「職業的平均余命」は男性よりも5〜7%短い。そのうえ女性は男性よりも労働時間が短い。「生物学的体力差」もあり女性医師は男性医師の労働力「量」の約80%。女性医師増加分は医師数の調整を図るべきだ。女性勤務医が約二万七千人なので、六千〜七千人の医師の追加が必要となる。

三. 五. 医療技術の進歩

医療は技術革新が起これば、新しい技術に医師が集約的に動員される。不可能だった疾患の治療・手術も可能となり仕事が増える。新たな医師不足が惹起される。この三十年間で医師総数は増加したが増加分は病院に吸収されている。それでも勤務医が過重労働から解放されない。

四. 提言

我々は次の三点の改善策を直ちに講じること提言する。

- （一）医師を大幅に増員する。
- （二）増員分が戦力となるまで十年はかかる。その間に、医師不足が特に深刻な医療圏（人口規模約二十万人）にマグネットホスピタルを一つ設置する。
- （三）マグネットホスピタル設置と同時に、地域全体で医師を長期的に育成する「包括的医師育成機構」を大学医学部、病院群、行政とで連携して創設する。

五. 医師の大幅増員

われわれは適正医師数の推計を行った。四十五万人の医師が必要と推計され、医学部定員を大幅に増加する必要がある。医学部入学定員は現在の50%増で四十五万人の医師数達成には三十年、一〇〇%増でも二十年もかかるという推計となる。とりあえずOECD加盟国の平均まで、医師数を増員するべき（現在の約一・五倍）だ。医学部入学定員の増員分が実効戦力になるまでに約十年かかる。

同時に医療政策科学を研究させる講座・分野を医学部に設置すべきだ。増員分が戦力となるまでの間、医師の適正数や、適正な医療費のあり方を研究させ、その研究成果に基づいて医師数を再調整する。財政逼迫だからこそ、予算を最

地裕太郎氏に授与されるシーンには、ジーンときた皆さんも多かったものと推察致します。

また、八期野呂春樹氏が中心となって苦心の末に蒐集した卒業生や恩師による著作・出版物の展示品は、その後、労作であるレジュメとともに母校図書館に寄贈され、卒業生著作物コーナーとして設置される運びとなりましたが、函館ラ・サールOBの足跡を残していく素晴らしい契機となったものと存じます。

来年はX9期の皆さん、宜しくお願い致します。

東京支部 消えた卒業式

第八回総会実行委員長回想

菊地裕太郎（八期）

あの「卒業式」は一つのジョークでもある。このジョークにこだわりや抵抗感をもつ仲間が少なからずいたことに、三八年前のセピア色の日吉が丘に思いを致す。

あの朝は、いつも身を包んでくれた黒い学生服を脱ぎ捨てて、セーターで登校した。意外にもセーターは着心地が悪く、開放感とは正反対の裸の不自由さを覚えた。

ラ・サールボーイと言われ、鼻持ちならぬ田舎の秀才達が、実はそうで（も）ないと自覚するのに時間はかからない。それでもラ・サールの制服・制帽は、少年達を、田舎のそして学校の期待と迷惑の中に閉じ込めるには十分な威力を発揮していたのであろう。だから、これ（体

制）をとりはずしたらさぞ愉快だろうと思ったものだが……。

八期生は、果たしてその実感を味わう間もなく、「明日から学校に来るに及ばず」と、十二月二日から長期冬休みに入り、勿論卒業式もなく、その日を境に仲間は故郷に帰り、多くの者は卒業証書が送られてきた記憶さえもない。

後輩の著名な作家は、小説の中で『騒ぐだけ騒いで制服制帽を廃止しただけ』と揶揄していたが、歴史としてはそのとおりだろう……仲間を次々と停学で失い、中退する者もいて、抜け難い教養主義に縛られながら、やり場のない想いの一人一人の人生史を別とすれば。

八期生東京同窓会は、学生時代以来歳相応に様々な思いを抱きながら、一度も絶えることなく毎年（「父の日」の前日）集まってきた。当番会の今回は七〇名が集まってくれた。

こんな私たちの身勝手な想いを込めた「卒業式」に、温かく一緒に祝ってくれたラ・サール同窓会の皆様にあらためて感謝申し上げますとともに、卒業証書をお渡し頂いたフェルミン・マルチネス校長先生、心温まるスピーチありがとうございました。



西日本支部

2008.9.6



西日本支部 支部長

藪越英昭（四期）

函館での青春時代に帰帰し、再会し、新しい出会いのために有志で始めた同窓会は西日本支部として承認され、九月六日（土）記念すべき一〇回目の同窓会が滋賀県大津の琵琶湖ホテルで開催され、無事終了しました。

今年は節目の一〇回目にあたり、思い出になる同窓会になるよう幹事一同で計画を練ってきました。来賓として初めて恩師中越先生と及川先生をご招待させていただきました。

アンドレ・ラベル理事長、齊藤同窓会長、品田同窓会役員、鹿児島ラ・サールから得本様、PTAから加地支部長様、同窓生からは一期寺島晴明先輩、二期寺本元嘉先輩他総勢四十名が出席されました。ご出席をいただいた皆様方に対し心より御礼申し上げます。

総会前の客船ミシガンによる琵琶湖周遊は四期の赤星さん、四期及川先生と私の三名と少数ではありましたが、九十分のクルーズを満喫しました。

そしてラベル理事長による恒例の追悼式、全員での記念写真、そして今回のメインイベントのひとつである中越先生による地理の授業があり、皆感激と感動を頂戴しました。本当にありがとうございました。

西日本支部の同窓会は第一回目から現在に至るまで厳粛な追悼式と親和向上を目的として実施して参りました。中学が併設されてからのPTAのご父兄との連携、鹿児島ラ・サールとの交流も他の支部の先陣として取り組んできました。今後の同窓会は親和向上にプラスして何がお役立ちできるのか聖ラ・サールの精神にならって「奉仕の精神」にも磨きをかけてまいりたいと思います。その一貫として今回初めてハイチの人々のために同窓会として寄付をお願いし当日四万円が集まりました。その善意の寄付金をラベル理事長にお渡し出来た事は大変嬉しく思います。

懇親会ではいつもの通りひとり一人が近況報告を行い、楽しいひと時を共有出来た事は喜びにたえません。そして最後に「It's a long way」を合唱し散会しました。

東北支部

2008.10.4



東北支部 事務局長

伊藤恒敏（六期）

函館ラ・サール学園同窓会東北支部総会が、十月四日（土）、仙台「エクセルホテル東急」で開催されました。今回で三回目の総会となります。参加者は総勢四〇名ほどとなりました。

函館から齊藤同窓会長が駆けつけていただきました。齊藤同窓会長は毎年参加



東京支部

2008.6.21



東京同窓会 会長

植木清三郎（四期）

この度、函館ラ・サール高等学校東京同窓会第三代目の会長を務めることになりました四期生の植木清三郎です。本日はご多忙の折にも拘らず、多くの来賓の皆様、懐かしい恩師の諸先生方のご臨席を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今を去る十六年前の一九九二年（平成四年）四月、日本経団連会館において函館東京同窓会が旗揚げされましたが、その後諸般の事情により同窓会活動は永らく休眠状態にありました。しかし、このような状態を憂慮した現菅原顧問を初めとする一期諸先輩並びに多くのOB有志のご尽力により、二〇〇二年（平成十四年）に第二回東京同窓会総会を開催するに至り、その後参加者数の漸増に伴い、本日三四〇余名の皆様と共に第八回

目の東京同窓会総会を迎えました事は、私にとって望外の喜びであります。

母校の歴史につきましては、総会資料のラ・サール小史をご参照頂きたく存じますが、一九三一年（昭和六年）に満州事件があり、その翌年一九三二年（昭和七年）にカナダのラ・サール会より四名の修道士が来日致しました。又同年はリットン調査団の来日した年でもあります。その後、北海道の玄関口である函館の地に学校開設を目論みましたが、当時は軍国主義の影が日本中を覆っていた時代でもあり、国防上戦略的位置を占めていた津軽海峡に面した函館山が望まれる日吉が丘に、外国人による学校開設を避けた経緯は容易に想像できます。従って小史にあるように、先ず仙台に福祉施設ラ・サールホームが誕生しました。

念願の学校は、戦後に至った一九五〇年（昭和二十五年）やっと鹿児島校が開設され、その後ちょうど十年後の一九六〇年（昭和三十五年）函館ラ・サール高校が開校、あのカマボコ型の講堂体育館で開校式典が実施されたと聞いております。従って、昨年二〇〇七年（平成十九年）はラ・サール会来日七五周年であり、同じく二〇一〇年（平成二十二年）は鹿児島校開設六〇周年、函館校は開設五〇周年となります。

現在函館同窓会本部では、学園の五〇周年事業計画に基づき、同窓会としての支援策を種々検討しておりますが、東京同窓会においても、本部と一致協力し、母校の記念事業を達成させるべく全力を傾注致しなくてはなりません。私の任期は二年であります、奇しく

も母校の五〇周年という節目に任期満了を迎える事になり、私個人にとっては非常に名譽な事と思う反面、大変な重責も感じております。

菅原・秋好両会長の築いてこられたレールを踏襲すると同時に、「母校の為に何が出来るか」と「Bの絆を深める為に何を為せばよいのか」を原点に、『新約聖書』「マタイ伝の『地の塩』たるべく、更なる東京同窓会の発展と組織拡大に努める所存であります。

就いてはFamily Spirit と Little Gentleman の精神を以ってこの五〇周年を迎えたく存じておりますので、高い壇上から失礼とは存じますが、皆様の更なるご支援・ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

東京支部

東京同窓会 第八回総会開催される

東京同窓会事務局長 林 完自（十四期）

平成二〇〇八年六月二十一日（土）、第八回函館ラ・サール東京同窓会総会が箱崎のロイヤルパークホテルに於いて開催されました。年々盛会となっている本会ですが、今回は来賓並びに同窓生を合わせて三四〇名という記録的な参加者数となりました。

X8期による総会実行委員会が一年間に亘って綿密に計画した今期総会のコンセプトは、『それぞれの卒業、そして出発』。同級生、同窓生、恩師との懇親の輪の中で「Back to the Future 函館」。時空を超えて持ち続けていく「青春のエッセンス」が感じられる楽しい集いを企

画した内容でしたが、講演会、懇親会とも、まさにテーマに沿った感動的なひとときを共有できる素晴らしい内容だったと思います。

総会では、平成十九年度の活動・決算ならびに二〇年度活動計画・予算の報告に続き、総会開催時期を六月とする会則の改正等が承認されました。秋好前会長（三期）から植木新会長（四期）への新旧交代をはじめとする役員改選も行われ、また従前より進められてきた函館ラ・サール同窓会各支部やPTA関東支部並びに母校五〇周年記念事業に向けた母校・函館本部との更なる連携強化の方針が確認されました。

講演会では、八期小田原修氏（東京工業大学大学院総合理工学研究科教授）による「過去は今、今は未来の宇宙観」というテーマ、同じく八期友田哲雄氏（三井不動産リゾート株式会社企画部長、金谷ホテル観光株式会社前社長）は、企業再生機構より派遣されて鬼怒川金谷観光ホテルを見事に短期間で再生させた実録「企業再生物語」をそれぞれ披露して頂きました。

ジャズピアニスト八期寺下誠氏率いるトリオによるジャズセッションをもって懇親会がスタートし、五期西尾正範氏（函館市長）が伝える「函館便り」へと続きました。

圧巻は、唯一卒業式の無かった八期生による「三十八年目の卒業式」でした。壇上に整列した八期生七〇名有余の目前で、当時のアンリー・ラクロワ校長名の卒業証書が、代読のフェルミン・マルチネス現校長より総会実行委員長である八期菊

函館ラ・サール学園 50周年記念事業 寄付金募集

1. 寄付募集期間

2006年9月1日～2010年3月31日

2. 寄付の方法

寄付の申込書、送金依頼書(郵便送金の場合)を今回の同窓会報送付にあたって同封させていただきます。個人名、又は団体名(同期会等:その場合も責任者名を記載してください)にて下記口座へてお振込みをお願いします。なお、**寄付した方の確認のために同封の「寄付金申込書」は振込みの方法の如何にかかわらず、所要事項を記載の上別途事務局までご送付(FAX)ください。【下記5(1)の税制優遇をうけるための書類の送付に必要です】**

3. 寄付のあて先

今回、従来からのみちのく銀行口座に加えて、送金の便宜のために**郵便口座を開設いたしました。**

①銀行口座

口座番号/みちのく銀行函館支店(店番号091)

普通預金2026043

口座名義/函館ラ・サール高等学校同窓会50周年記念事業(確認のため、送金者名のあとに回生クラス(例 ヤマダ タロウ 25B)を付けてください)

②郵便口座

口座番号/02700-1-97817

口座名義/函館ラ・サール高等学校50周年記念事業会
今回、郵便口座での送金依頼書(口座番号等の必要事項印刷済み)を同封いたしますのでご利用ください。

4. 寄付金額等

1口5,000円 出来れば2口以上でお願いします。

(なお、同期の懇親会等での残余金等の場合には端数金額も含めこの限りではありません)

5. 寄付に対する所得控除等の税制優遇について

(1) 個人の寄付金に関わる所得控除

「特定公益増進法人」として寄付金受入の制度により、5,000円を超える寄付について確定申告などにより、所得控除を通じて税制上の優遇を受けることができます。該当の方には学校名義の「寄付金受領書」および「公益法人証明書」をお送りします。

(2) 同窓会員が自己の経営する法人等の名義で寄付する場合の損金参入

「受配者指定寄付金」制度により、企業としての損金参入が認められます。本制度を利用する場合の手順については、学園の事務局が担当することになり、寄付金の振込先も異なりますので、学園事務局(担当:高田)までお問い合わせください。詳しい資料を送付いたします。

6. 寄付者氏名の公表

同総会ホームページに寄付者名を随時公表し、また同窓会会報等に掲載いたします。(匿名、イニシャルなどをご希望の方はその旨通信欄にご記入ください)

昨年より、同窓生相互の親睦、交流を深める為、新規事業として、「親睦ゴルフ大会」を開催し、今年度も引き続き「親睦ゴルフ大会」の開催を予定致しております。今後も引き続き、同窓会札幌支部としての内容を一層充実して参りますので、皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

懇親会の最後には、来年の札幌支部同窓会(総会)の企画、運営を担当して頂く幹事期(六、十六、二十六、三十六の皆様方)の紹介、決意表明があり、約二時間に亘る懇親会は閉幕となりました。

今後も母校の五〇周年に向けて、母校、函館同窓会本部、及び各支部の皆様方と連携しながら、同窓会活動をより一層盛り上げて参りますので、今後とも引き続きご協力下さいますようお願い申し上げます。

(札幌支部事務局記)

恩師からの 投稿

函館ラ・サール学園
非常勤講師

星川 郁哉



四〇年間勤務し、二〇〇二年三月に退職しました。その後五年間のんびりしていましたが、及川先生入院のため(現在、元気に勤務されています)今年の四月から非常勤講師として再び勤務しています。生徒は卒業生の皆さんと変わっていません。寝ていて注意される生徒もいますし……。

現校舎は立派でとても綺麗で気持ちがいいです。旧校舎は寒かったですね。特に理科室は西面で夏は暑く、冬は寒くて大変でした。そうそう暖房は石炭ストーブでしたね。若い人は石炭ストーブは知らないでしょうね。

これまで、物理は、小野先生、斉藤先生、大谷先生、そして、現職の及川先生と素晴らしい先生と勤務できました。多方面にわたっていろいろ貴重な意見をいただきました。私が四〇年間勤務出来たのは、ラ・サールの居心地が良かったからです。及川先生も来年度で四〇年の勤務になるそうです。

さて、今年、東京での同窓会に出席させていただきました。三五〇名以上の方々に参加され大盛況でした。ラ・サールの卒業生の強い絆を実感いたしました。また、何十年かぶりで津田先生にお会いし大変うれしく思いました。先生は哲学者

の雰囲気、重厚な様子は以前と少しも変わらないと感じました。ぐうたらな私としては少し見習わなくては。

総会では、小田原修氏、友田哲雄氏の講演を拝聴し、特に企業再生機構から金谷観光ホテルの再生に成功した友田氏の話の中で、量も重要なのは人材であることに強い感銘をうけました。ラ・サールの卒業生がいろいろな分野で活躍していますね。私も少しでもお手伝いできていれうれしいのですが。先日、学校で卒業生の著書一〇九冊が展示されました。いろいろな分野での成果の労作で、興味深く拝見させていただきました。これからも、健康に留意され、一層のご活躍を期待しております。

いただいています。また、ロドリゴ園長（仙台ラ・サールホーム）にもご出席をいただきました。今回はラ・サールホームの石井先生は参加されませんでした。が、ロドリゴ園長も毎年参加いただいております。今年は同窓会長、ラ・サールホーム園長に加え、函館からフェルミン校長、ラベル理事長にもお出でいただきました。さらに第三回総会のサプライズは倉橋先生です。わざわざ函館から参加していただきました。倉橋先生の担任だった「生徒」が何人か仙台にもいるようです。

来賓のご挨拶の中で、ロドリゴ園長（仙台ラ・サールホーム）は、同窓会東北支部のこれまでの仙台ラ・サールホームへ毎年の寄附への感謝と、現在のホームの運営の厳しさについても語気を強めて語っておられました。

ラベル理事長は、日本在住の、あるいは世界中でラ・サール会のブラザーが今後少なくなることから、ラ・サール会としては今後のラ・サール学園の運営に関して危惧しており、同窓会のさらなる協力と精神的支援が必要であるということをおっしゃっていました。

フェルミン校長は、最近母校で起きた不祥事に触れ、学校としての対応や、生徒への心配を自身の言葉を使って真剣に話をされました。あらためて修道士としての心の持ちように触れることができ、高校時代にブラザーに憧れたことを思い出しました。

来賓の挨拶に引き続き、支部長の交代が承認されました。東北同窓会設立当時から会長を務めておりました馬場 亨氏（三期生）から新たに遠藤八郎氏（三期

生）に引き継がれ、新たな東北同窓会としてスタートを切る形となりました。記念講演は、青森市在住の番地常夫氏（十期生）に「最近のお墓事情」と題してお話をいただきました。スライドを使ってお話の講演で、私たちが普段あまり触れることのできないお話でした。世界のお墓やダライ・ラマの話まであり、とても印象に残るものでした。

フェルミン校長からの提案でバスケット献金が行われ、四万五千円余りの寄附が集まり、校長を介してハイチのラ・サール会に贈られることになりました。会には、全体が一つの人の輪になって、「It's a long way to LaSalle High School」を大きな声で斉唱し、二次会へ、帰路へと散会となりました。

第三回総会後、昨年から予定しておりました会員同士をつなぐ「東北支部会報」第二号を十月二十五日付けを発行し、クリスマスに向けてのラ・サールホームへの寄付願いと一緒東北支部会員に送付いたしました。昨年度はラ・サールホームに約五〇万円の寄附となりました。本年度も事務局としては会員皆様からの心温まるご寄附を期待しています。

東北支部は広く会員が散らばっています。そうした会員を掘り起こし、同窓会の楽しさ、すばらしさを一人でも多くの会員に理解して実感してもらうために、事務局が宮城を除く東北五県を巡回したと考えて、最初に岩手県盛岡在住の藤村朗副会長に働きかけ、盛岡で会員に呼びかけてもらい、約二〇人の「岩手支部」総会・懇親会を十月三十一日（金）に開催してもらいました。学生六名も参加して

大変楽しい充実した時間を過ごすことができました。岩手のOBもこうした会が開催されることを長い間待っていた、と興奮気味に話してくれ、「冥土への土産話」に確実になりました。

このように同窓会活動は、人と人が出会って話すことから始まり、会報など通じて情報交換を続けることが、基本であると改めて教えられたところです。五〇〇名以上いる東北支部ですが、今後も年代や地域を越えて人の輪をしっかりと繋ぐ活動を着実に継続的にやっていきたいと思っております。

札幌支部 2008.9.11



札幌支部同窓会 会長

宮 永 雅 己（七期）

去る平成二〇年九月二〇日（土）、ホテルノースシティ（札幌市中央区南九条西二丁目）に於いて、ご来賓並びに同窓生を合わせ二四六名の参加を得て盛大に開催されました。

ご来賓として函館同窓会本部から齊藤同窓会会長、母校からアンドレ・ラベル理事長、フェルミン・マルチネス校長、品田義雄先生、並びに中越譲先生のご出席を賜り、お蔭様で楽しい一時を共有することができ、喜びにたえません。

今年の総会は、担当幹事期（五期、十五期、二五期）の皆様と共に準備を進めて参りました。企画、運営を担当された幹事

期の皆様方のご尽力により、大盛会のうちに札幌支部同窓会を無事終了することができました。ご参加頂きました同窓生の皆様、及び幹事担当期の皆様方に心より深く感謝申し上げます。

今年は若干、趣向を変え、恒例となりました講演を、「記念授業 & 課外授業」と称して、一時限目は記念授業として中越譲先生に地理学、二時限目は課外授業・業界訪問編として十六期の津嶋徳二氏【札幌テレビ放送（株）】にマスコミ学について、それぞれ講義（授業）をお願い致しました。二時限目は中越先生のとても懐かしい地理の授業、当時同様ユーモアを交えて、且つ、独特の語り口（中越節）にて授業を頂戴致しました。二時限目は津嶋氏によるローカルテレビの裏側事情、一般人にはなかなか知りえ得ぬ業界の実情、仕組みの一端を軽妙な語り口にて、ご披露戴きました。お二人とも今回の企画にご理解、ご賛同戴き、快くお引き受け戴き誠に有難うございました。

一方、支部総会におきましては、例年の会計報告（決算、予算）に加えて、事業報告、事業計画についてご承認を頂きました。

また、今年の総会におきましては、昨年立ち上げた「五〇周年記念委員会」を本格稼働させるべく、本校、および函館同窓会本部、各支部の皆様方と連携、協力しながら、母校の五〇周年行事に対して全面的に支援協力することを確認致しました。更には、各支部や母校のPTA会（札幌）との交流を密にする為、函館同窓会本部や各支部が開催する同窓会（総会）への役員派遣やPTA会札幌支部の会合への役員派遣についても、昨年同様、引き続き今年度も正規事業として決定致しました。

函館ラ・サール高校 同窓生 著作リスト

知の集積



第八回函館ラ・サール東京同窓会開催を機に、一〇三〇期の同窓生（敬称略）の単行本著書リストを作りました。

（二〇〇八年六月二十一日現在）

雑誌掲載文・学術論文・大学紀要・外国語論文等は外してあります。書名の前にある★は母校図書館にあります。☆は東京同窓会会場で展示・紹介しています。この後、母校図書館に寄贈します（★☆の本は東京同窓会当日、展示・紹介しています）

可能な限り調べましたが、このほか何人かの方が書いた著書があると思います。著者の方、同窓生の出版物をご存知の方は東京同窓会事務局までお知らせください。また、新刊を出された著者の方もお知らせください。

histokyo@yahoo.co.jp

母校図書館では同窓生の著書コーナーを充実するために、著書を送付していただけたら、ありがたいことです。

〒〇四一―八七六五

函館市日吉町一丁目十二番一号

函館ラ・サール学園 図書館

卒業生として、同窓会として、母校図書館充実のために協力していきたいと思っています。

今回、多くの著者の方から著書をいただきました（七〇冊以上）。母校図書館の同窓生の著書は一一〇冊以上になります。著書を快く母校図書館に寄贈していただけた著者の方々に感謝申し上げます。

（データ作成 八期・野呂春樹）

大 誠（大地賢三）（1期）

★『箱館戦争始末 土方歳三の恋』
ひねもすや出版 1700円／06年9月

竹内伝史（1期）

☆『新・都市計画概論 改訂2版』（編著）
共立出版 3990円／06年12月

門脇誠一（1期）

『ポケットプログラミング』
韓日・日韓辞典（共著）
小学館 3360円／04年4月

藤田耕之輔（2期）

☆『土と食糧 健康な未来のために』
（共著）植物栄養生理学（
朝倉書店 5775円／98年9月

山崎幸雄（2期）

☆『日本語を使いこなす
言葉の実用辞典』（共監修）
小学館 2520円／07年10月

川端和治（2期）

☆『くらしの相談室 慰謝料O&A』（編著）
有斐閣 1957円／90年7月

秋好憲一（3期）

☆『ヤツメウナギが世界の眼を救う
その驚くべき抗老化パワー』
文化創作出版 980円／06年3月

遠藤八郎（3期）

『親の目子の目世間の目
もひとつおまけに教師の目 新版』
三省堂 1680円／96年3月

乗木新一郎（3期）

『環境の化学分析』（共著 「海水」）
三共出版 4300円／98年3月

木村和範（4期）

★『ジニ係数の形成』
北海道大学出版会 3990円／08年3月

金谷誠一（松越文雄）（4期）

★『ひと休みの空』
思潮社 2520円／04年3月

宮下 憲（4期）

『ハードル』
ベース・ボール・マガジン社
1631円／91年8月

岡村州博（4期）

『知れば知るほど、女性のからだ まだ欲しくない。でもいつか出産してみたい。』
婦人生活社 1050円／01年6月

佐藤 光（5期）

☆『カール・ポランニーの社会哲学』
ミネルヴァ書房 5250円／06年4月

宮崎隆次（5期）

『戦争・復興・発展
昭和政治史における権力と構想』
（共著）開発計画・工業化と地方政治（
東京大学出版会 7740円／00年4月

栖原 暁（5期）

☆『アジア留学生の壁』
日本放送出版協会 918円／96年4月

佐藤正知(5期)

『エネルギーと環境』(共著)

三共出版 1575円/98年4月

曾我部正博(5期)

☆『生物物理学とはなにか』

未解決問題への挑戦』(編集)

共立出版 3990円/03年9月

金井一頼(5期)

『経営戦略 新版』

論理性・創造性・社会性の追及』(共著)

有斐閣 1995円/06年5月

齊藤裕志(5期)

☆『江差八勝 資料集』(編集)

頼三樹三郎研究会/03年9月

佐々木伸(5期)

『ホワイトハウスとメディア』

中央公論社 612円/92年4月

大野 洋(5期)

☆『知りながら害をなすな』(共著)

ダイヤモンド社 2940円/04年10月

伊藤恒敏(6期)

☆『地域医療システム構築』

東北大学医学部の取り組み』(共著)

東北大学出版会 2520円/05年5月

柿崎 繁(6期)

『危機における現代経済の諸相』(編著)

八朔社 5097円/92年5月

中井 洋(6期)・田辺幸雄(6期)

☆『レセプト審査』の不可思議 EPO訴

訟から学ぶ不當審査との戦い方』(共著)

医学通信社 1575円/04年11月

大沼邦博(6期)

『労働団体法 上巻』(共著)

青林書院 5709円/92年1月

外山茂樹(6期)

☆『人へ街へ 外山茂樹発言集』

函館大妻学園/03年10月

林 純一(6期)

☆『ミトコンドリア・ミステリー』

驚くべき細胞小器官の働き』

講談社 1092円/02年11月

紺井博則(6期)

『グローバル化と国際通貨』(共編)

日本経済評論社 4935円/03年12月

菊池正佳(6期)

『インターネット時代の数量経済分析法』

基礎からニューフロンティアまで』(共著)

多賀出版 2940円/94年4月

谷藤悦史(7期)

☆『現代メディアと政治』

劇場社会のジャーナリズムと政治』

一藝社 1890円/05年9月

渡邊博史(7期)

☆『私は毎日、天使を見ている。』

窓社 3990円/07年1月

手塚公登(7期)

☆『経営学再入門 再チャレンジ！』

基礎から最新の理論まで』

(共著)『経営組織論の構成と展開』

同友館 2730円/02年2月

霧 日出朗(7期)

☆『原価計算論 改訂版』

創成社 2415円/01年4月

和田拓司(和田 司)(8期)

☆『変貌する演奏神話 33回転の精神史』

春秋社 2310円/00年7月

金谷武洋(8期)

☆『日本語には主語はいらない』

百年の誤謬を正す』

講談社 1575円/02年1月

牧田善二(8期)

☆『糖尿病専門医にまかせなさい』

文藝春秋 1300円/06年3月

新谷恭明(8期)

☆『学校は軍隊に似ている』

学校文化史のささやき』

海鳥社(出版・福岡県人権研究所)

1260円/06年3月

太田 清(8期)

『データで読む生活の豊かさ』

東洋経済新報社 2310円/99年11月

岡田信弘(8期)

☆『憲法のエチュード』(編著)

八千代出版 2520円/04年5月

小田原修(8期)

☆『軌道上実験概論』

宇宙・流れ・生命』(監修)

海文堂出版 3990円/00年4月

鎌田広己(8期)

『太宰治「走れメロス」作品論集』

(共著)『走れメロス』(試論)

クレス出版 5040円/01年4月

澤田賢一(8期)

『症状から診る内科疾患』(共編)

メジカルビュー社

13650円/05年4月

瀬戸正昭(8期)

☆『詩集 音楽』

林檎屋 1900円/99年1月

中山卓三(8期)

☆『詩集 凍える埧基』

ライフ出版社 2000円/93年9月

菊地裕太郎(8期)

『不動産紛争解決の手引』(編著)

新日本法規 11550円/04年3月

笹浪恒弘(8期)

『条解民事再生法 第2版』(共著)

弘文堂 13650円/07年12月

赤松 晃(9期)

☆『国際租税原則と日本の国際租税法』

国際的事業活動と独立企業原則を中心に』

税務研究会出版局

5250円/01年11月

加藤久典(18期)

★『健康栄養学 健康科学としての栄養生理学』(共編著)

共立出版 2940円/05年4月

加藤公堂(18期)

★『予備校論学力崩壊にライダーキック!』

文芸社 1365円/02年12月

福井康佐(18期)

☆『国民投票制』

信山社出版 8925円/07年3月

湯浅哲也(18期)

『ME用語事典』(共著)

コロナ社 23100円/99年10月

有馬善一(18期)

『哲学に何を問うべきか』

(共著)『世界の知ー理念・地平・開けー』
晃洋書房 3990円/05年10月

畠山直毅(18期)

☆『この一秒 極限を超えた十人の物語』

日本放送出版協会 1575円/00年10月

三浦雅樹(19期)

『中国名言名句の辞典』(共著)

小学館 5250円/89年1月

石子智士(19期)

☆『網膜・硝子体 すぐ役に立つ眼科診療の知識』(共著)

金原出版 10290円/05年9月

野村修也(19期)

『ケースブック会社法 第3版』(共著)

弘文堂 4095円/08年3月

上田正和(20期)

★『演習憲法人権学部試験／各種国家試験／公務員試験 問題研究と答案例』(編著)

新世社 2625円/96年4月

藤田 衛(20期)

『生き残る病院建築 その設計手法』(共著)

理工図書 3990円/02年12月

野澤 康(21期)

☆『まちづくりデザインのプロセス』(共著)

日本建築学会 1995円/04年12月

豊福晋平(23期)

『ITと文明 サルからユビキタス社会へ』

(共著)『コミュニティを基盤とした教育情報化の展望』

NTT出版 2730円/04年9月

高田 洋(24期)

☆『社会の見方・測り方 計量社会学への招待』(共編・共著)

勁草書房 3570円/06年7月

石岡克俊(27期)

『著作権流通と独占禁止法』

慶應義塾大学出版会 3360円/01年11月

斉藤匡康(27期)

『なっている町の鴉』

フリープレス 1470円/99年7月

船越 洋(29期)

『増殖因子と受容体』(共訳)

メデイカル・サイエンス・インターナショナル
4410円/00年4月

本城慎之介(29期)

☆『本音の履歴書』(共著)

アマーバックス 1365円/07年4月

『付記』先生たちの著書

※著者の()内は担当教科・在籍期間・その後の勤務先等です。

谷口 巖(国語・60～66年/愛知教育大学)

岐阜女子大学 愛知県瀬戸市在住)

★『吾輩は猫である』を読む』

近代文芸社 97年1月

遊佐悦大(社会・60～94年/函館市花園町在住)

『父親だけにできること』

女子パウロ修道院 650円/78年3月

柳瀬喜代志(国語・61～63年/早稲田大学)

物故)

★『日中古典文学論考』

汲古書院 21000円/99年7月

吉岡正敏(英語・62～68年/函館工業高等)

専門学校 札幌市在住)

☆『フランス語ことわざ研究』(訳)

駿河台出版社 3675円/05年4月

村元直人(理科・64～93年/函館短期大学)

函館市日吉町在住)

★『蝦夷地の外人ナチエリストたち』

幻洋社 1995円/00年12月

津田洋行(国語・64～69年/明治大学文学部)

東京都青梅市在住)

☆『透谷像構想序説 伝統と自然』

笠間書院 1500円/79年5月

宮崎守成(数学・65～76年/函館工業高等)

専門学校 函館市深堀町在住)

『初等数学』

近代文芸社 2039円/94年11月

大谷隆昶(理科・66～69年/広島工業大学)

広島県大竹市在住)

☆『大砲と帆船』(訳)

平凡社 2800円/96年3月

高月 晋(英語・67～72年/函館大学)

函館市上湯川町在住)

★『英検辞典』

丸善 4725円/03年9月

石井恭一(倫理・70～72年/ラ・サール・ホーム)

仙台市在住)

『丘を下つていった人聖ラ・サールの生涯』

ラ・サール学園同窓会(鹿児島) 3000円

※詳細につきましては同窓会ホームページに掲載予定です。

吉田晃敏(9期)
☆『格差なき医療』
日本中が世界最高水準の治療が
受けられるようになる日』
講談社 1575円／07年4月

齊藤享治(9期)
★『日本の扇状地』
古今書院 2940円／98年10月

丸藤 哲(9期)
『臨床研修 救急一直線』(編集)
南江堂 5985円／03年5月

諸戸樹一(9期)
☆『ロレンス研究 アロンの杖』
(共著)『逆転の構図』
アロンの杖と聖書の問題』
朝日出版社 2100円／88年12月

吉川和宏(9期)
『憲法(1) 統治機構』
不磨書房 3360円／04年10月

齊藤朋久(9期)
★『石佛庵記Ⅲ』
石乃美社 3000円／03年6月

松久三四彦(9期)
『民法1 第3版補訂 総則』(共著)
有斐閣 1680円／07年10月

黒坂裕之(9期)
★『気候環境誌』
私家版 99年6月

當作靖彦(10期)
『Yokosoi vols. 1 and 2 Third Edition』
McGraw-Hill Companies \$80.00
March 2007

畑山義人(11期)
★『景観用語事典』(共著)
彰国社 3780円／98年11月

廣川博之(11期)
『眼科臨床メモ 改訂第3版』
(共著)『黄斑部疾患』
南江堂 4725円／06年10月

藤井眞吾(11期)
『ギター二重奏のための
サティ作品集』(編集・楽譜)
現代ギター社 1680円／98年12月

中富清和(12期)
★『無と愛の哲学』
北樹出版 3885円／02年2月

今野 敏(12期)
★『隠蔽捜査』
新潮社 1680円／05年9月

橋本和仁(12期)
★『光触媒のしくみ』(共著)
日本実業出版社 1890円／00年10月

加藤智章(12期)
☆『社会保障法 第3版』(共著)
有斐閣 2205円／07年5月

佐藤鉄男(12期)
『ゼミナール破産法』
法学書院 2100円／98年1月

野村 伸(『むらしんぼ』(12期)
『つるピカハゲ丸ベストセクション上・下』
小学館 各1400円／05年8月

佐藤眞悦(13期)
★『古代中国天命思想の展開』
学文社 3465円／96年6月

大久保雅一(13期)
★『ピアレビュー 高品質ソフトウェア
開発のために』(監訳)
日経BPソフトプレス 3045円／04年3月

池田昌幸(13期)
☆『金融経済学の基礎』
朝倉書店 5460円／00年3月

小助川貞次(13期)
『高山寺古訓点資料 第四』(共著)
東京大学出版会 31500円／03年8月

斎藤智文(13期)
☆『働きがいのある会社
日本におけるベスト25』
労務行政 2500円／08年6月

村井康司(14期)
★『ジャズの明日へ
コンテンポラリー・ジャズの歴史』
河出書房新社 1890円／00年5月

蛸島 直(14期)
『身体と心性の民俗
(講座)日本の民俗学 第2巻』
(共著)『病氣と死』
雄山閣 5040円／98年1月

津金孝行(14期)
『文科系のための情報科学入門』
高文堂出版社 2243円／97年4月

青山英樹(14期)
『機械設計学』(共著)
朝倉書店 3570円／98年12月

佐々木亘(14期)
『トマス・アクィナスの人間論
個としての人間の超越性』
知泉書館 5040円／05年1月

辻 一郎(14期)
☆『のぼそう健康寿命』
岩波書店(岩波アクティブ新書)
735円／04年2月

小笠原博宣(14期)
『眼科学大系1』
(共著)『眼科学診断学・眼機能・
眼底の血液測定』
中山書店 93年1月

井元秀剛(17期)
☆『余裕!のフランス語』
白水社 1785円／04年3月

函館ラ・サール高校同窓会報

08年大学別合格者数と年度別推移 クラブ活動成績 (主要なもの)

卒業年度	2008 H20	2007 H19	2006 H18	2005 H17
国立大学				
北海道大学	18	27	26	30
北海道教育大学	2	3	0	0
室蘭工業大学	2	2	0	1
小樽商科大学	2	0	3	2
旭川医科大学	3	2	1	3
札幌医科大学	5	5	1	3
弘前大学	3	2	4	3
東北大学	4	6	8	5
山形大学	2	1	0	3
筑波大学	2	1	1	3
千葉大学	1	3	3	1
東京大学	5	4	3	2
東京外国語大学	0	1	1	1
一橋大学	0	0	4	0
横浜国立大学	4	1	1	3
信州大学	1	2	1	1
名古屋大学	0	0	1	1
京都大学	4	2	2	3
大阪大学	1	2	1	2
防衛大学校	3	0	4	5
防衛医科大学校	1	2	2	1
その他の国公立大学	26	29	35	25
国公立大学・小計	89	95	100	98
私立大学				
北海学園大学	0	6	9	2
北海道医療大学	3	3	14	2
青山学院大学	9	3	4	0
学習院大学	5	1	1	2
慶応義塾大学	6	10	13	8
国際基督教大学	0	0	3	1
芝浦工業大学	2	1	4	2
上智大学	4	4	2	1
中央大学	20	14	14	15
東京薬科大学	3	1	2	2
東京理科大学	12	12	10	6
日本大学	16	8	11	5
法政大学	8	7	9	2
明治大学	14	15	12	10
明治学院大学	7	3	2	1
立教大学	10	8	6	6
早稲田大学	17	14	12	18
同志社大学	5	6	6	1
立命館大学	17	1	6	2
関西大学	3	1	0	2
関西学院大学	1	0	1	1
その他の私立大学	70	76	77	61
私立大学・小計	232	194	218	150
総計	321	289	318	248

(平成20年4月9日判明分)

住所変更通知

毎年、同窓会会報が多数「転居先不明」で返送されてきます。この会報がお手元に届いた場合でも、「転居先」に転送された場合は、次年度以降には「転居先不明」になる場合がありますので、お手数ですが、下記の「住所変更通知」を事務局にFAXしていただくか、ホームページからご連絡いただくようお願いいたします。
※本データは函館ラ・サール同窓会事務局が責任をもって保管し、同窓会名簿の制作及び同窓会・同期会の連絡以外の用途には一切使用しません。

切り取り線

FAX 0138-54-0365(函館ラ・サール学園事務局)

★は必須事項

ふりがな		(旧姓) ※変えていない場合
★氏名	(姓)	(名)
卒業年次	西暦	年3月 回生
★現住所	〒□□□-□□□□	(都・道・府・県) (市・区・町・村)
電話	TEL() - FAX() -	携帯電話

勤務先(学校)	名称	TEL() -
メールアドレス	(複数の場合はよくお使いになるアドレスを2つ) @	
同窓会サイト加入	済・未 (いずれかに○)	
通信欄	(連絡先を自宅以外とする場合、転居予定などがございましたらその旨をご記入ください)	

《中体連・その他の大会の記録》

○剣道部

函館市中学体育大会	団体戦	優勝
ラ・サール	3-0	榎法華
ラ・サール	4-1	本通
	先鋒	鈴木 介
	次鋒	谷口 隆英
	中堅	船越 匠
	副将	菊島 裕樹
	大将	都築 正嗣
渡島支庁大会	団体戦	第2位
ラ・サール	1-3	森

○柔道部

函館市中体連	団体戦	準優勝
個人戦	55級	齊藤 毅 第3位
	60級	片岡 和之 第2位
	73級	中島 耕大 第2位
	81級	木浪龍太郎 優勝
	81級	谷川 丈太 第3位
渡島支庁大会	団体戦	第2位
個人戦	81級	木浪龍太郎 準優勝

○体操部

全道大会	一部団体	優勝	金高 彰海(3年)
			米澤 寿季(3年)
			奥寺 耀(3年)
			藤島 翼(2年)
補欠	村山 阜(1年)		
	日下 達也(2年)		
全国大会	一部団体	10位	金高・米澤・奥寺・藤島 補欠 村山・宮本

○陸上部

中体連地区大会(函館市)	
砲丸投	優勝 久保木秀幸

○バスケットボール部

道南中学校春季交歓大会	Aブロック
ラ・サール	42-27 旭岡中
ラ・サール	41-38 潮見中(Aブロック1位)
函館市中学校体育大会総合競技大会	
2回戦	ラ・サール 65-36 本通中
準々決勝	ラ・サール 49-46 西中
準決勝	ラ・サール 36-77 宇賀の浦中
(函館市3位)	

○野球部

中体連(準優勝)	
1回戦	ラ・サール 4-2 桐花中
2回戦	ラ・サール 5-1 潮光中
3回戦	ラ・サール 3-0 本通中
準決勝	ラ・サール 6-2 五稜中
決勝	ラ・サール 8-9 湯川中

